「民意の最大公約数」

倉渕ダム凍結 知事表明

小寺弘之知事が3日、県営倉渕ダムの本体工事凍結の方針を表明した。厳しい財政状況や、ダム建設の緊急度の低さなどを理由にしている。県は凍結後も、必要な調査などは続けていくとしているが、本体工事再開の見通しは現段階ではまったく不透明だ。暫定取水をしている高崎市の水の確保をどうするかなどの問題も残っている。

厳しい財政が背景

高崎市の水確保に課題も

小寺知事は凍結判断について先月27日、川西寛土木部長ら、関係部局に伝え、高崎市など関係する自治体や機関などとの調整を図るよう指示した。また、国とも今後の対応などについて協議を始めているという。

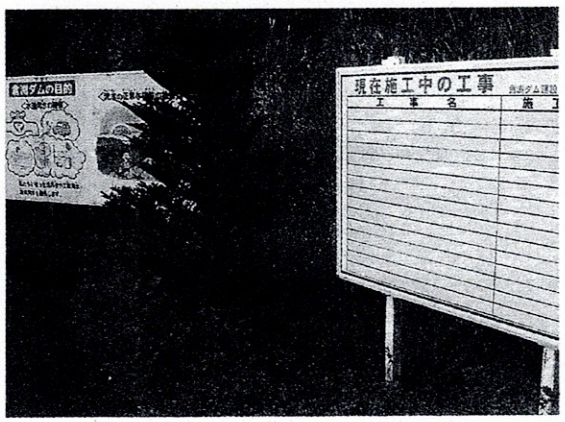
凍結の理由としては、本体工事に着手した場合、今後数年間に必要とされる2百数十億円の投資が、現在の財政状況下では厳しいことや、カスリン台風（47年）以降大きな洪水被害が出ていないこと、ここ数年水道需要が伸び悩んでいることなど、治水、利水の面からのダム建設の緊急性が低いことなどと説明した。

また、これまで県がダム建設の必要性の根拠として示してきた調査結果やデータなどについて「色々な調査資料など見る限りでは、（予定通り）建設を続ける」それまでの説得力は出てきていない」とした。

小寺知事は再開のめどについては明言せず、「このままで必要なければ着手しない」とした。また「私の判断は200万県民の民意の最大公約数の判断ではないか」と話した。

県は今後、本体工事以外で来年度も継続しなければならない事業の精査など国などの関係機関や周辺自治体などとの調整を図るという。

一方で、利水面での問題もある。高崎市は、倉渕ダム建設を前提に水利権を確保、1日当たり約2万トンの暫定取水をしている。同市の矢沢敏彦・上下水道事業管理者は「事業者の県の判断なので仕方がないが、市は水利権確保のため事業にのっている。水利権が保障されないと不安だ」と話している。



工事名と施工者を示す看板は、テープが張られて文字が隠されていた＝倉渕村で

キーワード

倉渕ダム 洪水調節や高崎市の水道用水確保を目的とした重力式コンクリートダム。総貯水量1160万立方メートルで完成すれば県営ダムとして2番目の規模になる。09年度完成の予定。総事業費約400億円のうち、調査費など約160億円をすでに投入している。国指定の天然記念物イヌワシの繁殖期として、今年10月中旬から04年5月まで工事を中止するとしていた。

知事発言要旨 「慎重な対応必要」

小寺弘之知事は、県営倉渕ダムの本体工事凍結の方針について、小林義康県議（自民）の質問に答える形で明らかにした。答弁での知事の発言の要旨は次の通り。

◇ ◇

財政上の問題や緊急性の問題など、本体工事にいつ着手するかなどできるだけ早く方針を決定したい。

財政面から考えると、本体工事に着手した場合、今後数年間に2百数十億円の大きな投資が必要で、県財政の厳しい状況からは難しい。

また、事業の緊急度や県民の理解度などにおいてカスリン台風以降、大きな被害が出ていないことや、ここ数年水道需要が伸び悩んでいることもあって治水、利水の面できらに慎重な対応が必要な状況だ。

これらを総合的に勘案して、現時点では来年度より当面の間、本体工事と残る工事への着手を見合わせることにして、土木部などに対し必要な調整をするよう指示したところだ。

大半は理解

県議会の反応

倉渕ダムの凍結方針について、高崎市区選出で自民党の松沢睦県議は「厳しい財政状況から考えて、仕方のないことなのではないか。高崎市にとっても負担は厳しいだろう」と理解を示した。その上で、地元の意見など今後の状況を見守っていくとしている。

公明党県議団・小島明人代表は「知事の判断は前向きに、重く受け止めたい。財政状況などをみると、知事が出したような判断にならざるをえなかったのではないか」と話した。

フォーラム群馬の長崎博幸代表は「財政が厳しい現在、妥当な判断だ。白紙に戻すには利水面などの影響を見る必要があり、その意味でもいいタイミングだと思う」。

共産党の早川昌枝・県議団長は「県議会で一貫して中止を求めたのは我が党だけ。県は説得力ある説明をしなかった。住民運動とも連動し県政を動かした一つの成果だ」と話した。また、改革クラブの石関貴史代表は「今の段階ではまだ状況がよくわからず、コメントできない」とした。

「水利権確保を」

松浦・高崎市長

高崎市の松浦幸雄市長は「市民に安定、安全な水を供給するため、ダム建設で生み出される水利権取得のため参画した。市の水利権の確保については確約をお願いしていく」などとするコメントを出した。

「残念」「せめて河川改修を」

地元の声

倉渕村権田の烏川そばで飲食店を経営する男性(65)は、ダム建設凍結について「非常に残念。ダム建設に反対するのは、村の住民でない人。（小寺知事の発言は）反対運動の影響を受けたんだと思う」と話した。

村内の建設業社長(44)は「大手ゼネコンが施工する本体工事が中止されても、我々地元業者にはあまり関係がない」という。「ダムを造らないのなら、せめて河川の改修工事をしてくれないと、住民は安心して暮らせない」と訴えた。

「戸惑い感じる」

市川・倉渕村長

市川平治・倉渕村長は「治水の面でダムに期待する住民の声は非常に強く、経済効果も期待できた。戸惑いを感じる」と語った。しかし「反ダムの世論から、ある程度は予測していた」という。今後の対応については「高崎市長との協議や、地元住民の声を聞くなどして考える」と話した。

2003.12.4 朝日